

花と緑のあふれるまちづく

花びと通信

No.34 2020年8月31日
花びと会ちば

【令和2年度 通常総会書面決議結果報告】

花びと会ちばの令和2年度の通常総会の開催については、4月22日（水）千葉市総合保健医療センターでの開催を予定しておりましたが、4月7日に緊急事態宣言が出され、「新型コロナウイルス」の感染拡大防止の観点から中止にする事にいたしました。当会としては、感染防止のため、会員の安全・安心を鑑み、書面議決による総会とさせていただきました。書面議決結果は、5月14日付にて文書を郵送させて頂いております。結果の概要は、次の通りとなっております。会員総数52名、議決権行使数48名、過半数の賛成をもって可決されました。

第1号議案 令和元年度事業報告	賛成 48	反対 0
第2号議案 令和元年度決算報告	賛成 48	反対 0
第3号議案 令和元年度監査報告	賛成 48	反対 0
第4号議案 新役員について（案）	賛成 48	反対 0
第5号議案 令和2年度事業計画（案）	賛成 48	反対 0
第6号議案 令和2年度収支予算（案）	賛成 48	反対 0

以上、令和2年度総会議案は、すべて可決いたしました。

【大賀ハスを楽しむミニイベント】

開催日：2020年6月27日（土）～28日（日）

内 容：講談＆大賀ハスガイド

千葉公園の大賀ハスはコロナ禍に関係なく、なぜかいつもよりその可憐な花が咲き誇り、大賀ハスまつりが実施できず、とても残念です。

そんな中、早朝よりたくさんの方々が思い思いにマスクをして花を愛でていてくださいます。花びと会では、せめてもとの思いから6月27日と28日の土日にミニイベントを実施しました。両日とも体温チェックとソーシャルディスタンスを確保し、みなさまに大賀ハスガイドによる、五感を通した解説などで案内させていただきました。28日は雨模様になってしまいましたが、晴天では見られないハスの花の魅力にも触れていただけたようです。

また、27日は検温や記帳などにご協力をいただいた先着20名様になってしましましたが、蓮華亭内で講談師の佐々木羅々梅（ささき ららばい）さんによる、自作の講談「大賀ハス発見の由来」を2回演じていただきました。昨今の講談ブームのおかげもあり、間隔を大きくあけた座席はすぐに満席になり、戦後間もない昭和の昔を知る人は頷きながら、若い方やお子さんは目を丸くして聴き入っており、大きな拍手で賑わったことは言うまでもありません！

来年は、大賀ハス発見70年の記念すべき年にあたります。今年できなかつた分、素晴らしい大賀ハスマつりを開催したいと思います。コロナを乗り切って、花びとさんみんなで力を合わせて成功させましょう！

【日野達弥】

【講師派遣事業】

今年度も、公民館から講師の委託を受け コケ玉・ハイドロカルチャー講習を行いました。

・7月4日 蟻公民館 ・7月7日 千草台公民館 ・7月12日 幸町公民館

コロナ禍のなか、参加人数を制限し、開催できました事に感謝しております。



【バス研修】

日時：2020年7月23日（祝・木） 参加人数：14名

研修先：行田市 古代蓮の里・忍城址・足袋博物館

花びと会しばの恒例行事になっているバス研修、今年は5年ぶりに埼玉県行田市に決定、7月23日（海の日）、市役所隣りの千葉みなと公園横に6時50分集合、予定通り14人が参加し出発しました。



行田市といえば古くは、足袋のまちとして栄え、まちなかには多くの足袋蔵も残って風情があり、最近はテレビドラマ「陸王」でもクローズアップされたまちです。街の中心に位置する忍城（おしじょう）は、戦国末期の落城しなかった城としても有名で、映画「のぼうの城」にも取り上げられました。また、公園となっている「古代蓮の里」の古代蓮会館展望室（高さ50メートル）から見ることができる「田んぼアート」でも知られており、自治体として観光にも力を入れています。

今回の研修の主な目的は、古代蓮の里の展示室などを視察してその展示方法などを確認し、マスコミへの発信力が強い行田市の観光施設としてどんな方法で情報発信や案内をしているかを知り、今後に役立てることです。最初に古代蓮の里を管理されている方から丁寧な説明をいただき、見学をスタートしました。敷地14ヘクタールの広い公園内には42種約12万株のハスが展示されていて、とても全部は見られないと感じました。展示室には、8分程度の動画を見るコーナー（プロジェクター3台使用）があり、博物館のようなリアルな展示、クイズ形式でめぐると答えと解説ができる展示、ハスの根の部分の原寸大模型展示もあり、色々な発見ができました。キッズスペースや図書コーナーも有りましたが、本館とは別に土産品を販売している建物もあったり、十分な駐車スペースも確保されておりました。参加した人たちからは、管理者の方へ様々な質問が投げかけられておりました。

午後からは、足袋藏まちづくりミュージアム（観光ガイドステーション）や観光情報館ぶらっと♪ぎょうだ、忍城（行田市郷土博物館）などを見学し、帰途につきました。

今回の研修会は、今後の蓮華亭での展示をどうするかや情報発信の方法など、色々な意味で、参考になった視察研修でした。

【櫻浦敏彰】

昨年、花びと会しばに入会し、大賀ハスまつりで「象鼻杯」を手伝いました。戸惑いながらも、参加の方々の驚きや喜びの表情、「楽しみにしていたのよ」の声を聞き、充実感にひたりました。今年もと意気込んでいたところ、コロナ禍で中止の連絡、残念でした。ならば後学のためにと研修会に参加しました。車内では自己紹介と、先生方のお話に興味をそそられるとともに、蓮に対する造詣の深さに驚かされました。古代蓮会館では、始めに管理運営にあたる行田市職員さんから説明を受けた後、館内を見学しました。見て、触って、聴いてと楽しみながら、展示物を見学できました。花の色・形状・大きさも異なる蓮の花のレプリカや、三画面大スクリーンシアターもあり眼でも楽しめる工夫がありました。又、行田の自然を紹介しているコーナーも有りました。展望台は高さが50mもあり、周囲の景観は素晴らしいでした。晴れていたら、遠く関東平野を取り囲む山々を眺望できたのに残念でした。コロナ禍のため、世界最大の田んぼアートも中止になっていたのにも残念。降りて園内に入ると



42種類、約12万株の蓮が圧倒してくる。世界の蓮園には色とりどり、大小さまざま、見事に咲いている。もう既に終わっているものもあるが。ピーク時期の午前中の見学だったら、さぞかし豪華な蓮花に対面できることだろう。広い園内をきちんと整備・管理されていることに感心するとともに、職員さんたちの熱い情熱を感じました。蓮で心癒された後は、おいしいイタリアンを堪能。しっかりお腹も満たした午後は、行田市内の散策です。国の伝統工芸品で生産日本一の「行田足袋・蔵」と行田のシンボル「忍城」「行田市郷土博物館」を見学しました。有意義で楽しい一日を過ごすことができました。大賀ハス発祥の地の千葉市も負けてはいられません。大賀ハスまつりの期間中はもちろん、普段からも賑わいのある千葉公園であってもらいたいです。

【一色康博】

暦の上では「大暑」というのに梅雨が明けきらぬ7月23日、バス研修で行田市の「古代蓮の里」を視察。古代蓮会館では市及び指定管理者の方々に説明・案内していただきました。今年の研修目的が、「蓮華亭の大賀ハスの展示内容について当会から市へ提案すること」でしたので、会館の展示について報告します。



展示室は、面積404m²、収容人員160人の規模で、行田の自然やハスの生育、ハスに関する文化などについて、模型やジオラマ、映像によってわかりやすく表現されている。

①行田蓮（古代蓮）の発見～奇跡の再生ストーリー～：蓮池をイメージした展示室のアプローチに4枚のガラスケースがあり、行田蓮が自然発芽し開花するまでの様子を展示。4枚の衝立は、行田蓮の自生地の様子を昭和52年のニュース映像で紹介。

②古代蓮ふれあいシアター～大迫力の大型スクリーン：古代蓮の里の四季の移り変わりを鮮明な4K映像で紹介（投影時間約8分）。



③古代蓮観察コーナー：古代蓮の生態について学ぶコーナー。「蓮とは何か」「蓮の概要」「行田蓮の特徴」「蓮の生態と分類」などの解説の他、蓮の生育過程をレプリカで展示。また、「Q&Aコーナー」では、ハスの特徴をクイズ形式で学べる。
④花蓮のレプリカ展示：古代蓮の里に咲く花蓮のうち20種のレプリカが飾ってある他、22種の花蓮の特徴を展示。

⑤蓮の文化誌コーナー：蓮の文化誌、花蓮名所マップ、蓮と仏教、蓮と美術、蓮と食文化、蓮の育て方などを展示している。常設展示の他、古代蓮の里友の会等による企画展を開催している。

古代蓮会館の展示を見て、蓮華亭で実現できたら良いと思う点をまとめてみました。

- ① レプリカによる蓮の生態の展示
- ② 子どもが楽しみながら学べる蓮の「Q&A」コーナー
- ③ 大賀ハス～奇跡の発見・開花のストーリー
- ④ 映像による大賀ハス物語（花の美術館情報コーナーにあった）

【斎藤久芳】

【大賀ハスへの思い】

大賀ハスが発掘されてから来年は70年の節目になります。大賀一郎博士がハスにかけた情熱や古蓮の実の研究、中国フランテン「普欄店」でのハスとの出会いが大賀先生の運命を変えていったと思われます。先生は明治42年(1909)に東京帝国大学植物学科を卒業され大正6年(1917)南満州鉄道株式会社員として中国大連に赴任されます。満鉄の教育研究所、奉天教育専門学校の時代、南満州の植生や分布を研究され、生理、生態などの論文を出されています。この時、フランテンの古いハスの実に巡り合われています。コーリヤンの畠から村人はハスの実を掘り出し食べていた。「300年もまだ生きている」との伝説に興味を持たれ、新旧の実の解剖をして比べたり、ヤスリで皮を削ったり切ったりして発芽試験などを始めておらました。しかし、実の長寿の問題に本格的に取り組むとは思っておられなかったようだと、「理学博士大賀一郎科学論文集」篠遠喜人氏はあとがきで述べられています。大正12年(1923)米国へ留学され、ジョンズ Hopkins 大学の植物生理学者リピングストン教授のもとで生理学や生態学を修められました。同室のシカゴ大学教授シヤル博士の勧めで古ハスの研究に取り組み、帰国後、南フランテンの泥炭地に見いだされる生存古蓮の実の研究をまとめられ、東大から理学博士を得られます。フランテンの実は控えめにみて400年は生きていたし今後数千年は生きるだろうと推定されています。このように古蓮の実の研究を続けられた大賀博士は、昭和26年(1951)3月30日、千葉市内の東大厚生農場「現総合運動場」の泥炭地から古蓮の実を発掘、発芽させ開花に成功しました。大賀ハスと名付けられ千葉市の花にも指定されています。70年近い当時の事を思うと大賀博士の夢を発掘に携わった人々が共有して作業協力をなさっていたんだろうと考えます。

梅雨から夏にかけて大きな花を咲かせてくれる千葉公園の大賀ハスは市民の心にやすらぎを与えていています。「花びと会しば」と「千葉市」共催の「大賀ハスまつり」は市民の大賀ハスへの認識が高まったかと思います。さらに、一昨年から取り組んでいる「夜ハス」は、独創的で今までに考えられなかった次世代へ千葉市の花「大賀ハス」を繋げていくためにも「花びと会しば」の活動が期待されます。

【南 定雄】

【市民会館花壇管理】

コロナ、コロナで四季の移り変わりを感じる事が少なかったので、せめて花壇の花々でと思い、5月にカラフルな200株のガザニアやマリーゴールドを植え付けました。しかし、今年の異例な長梅雨と日照不足で残念ながら生育が思わしくありません。今年で6年目に入りますがかつてない状況です。契約変更により今年度は年3回(5月、9月、12月)の植栽に変わりました。9月に植えるベゴニアで又道行く方に楽しんで頂けたらと思います。

【イベント情報】

- * フラワーフェスティバル (コンテナガーデンコンテスト)
 - ・10月13日～18日
 - ・三陽メディアフラワー・ミュージアム
- * 秋のバラ展
 - ・10月30日～11月1日
 - ・都市緑化植物園(中央区星久喜町)
- * Zoo フェスタ
 - ・11月7日・8日
 - ・動物公園

個人会員&賛助会員 募集!

花や緑に関心のある方一緒に活動しませんか。

研修会、講座、講演会等を開催しています。

◆個人会員 年会費:1,000円

◆賛助会員 個人:年会費:3,000円

団体・企業年会費:5,000円



花びと会しば

事務局「千葉市都市局公園緑地部緑政課」

Tel043-245-5753 Fax043-245-5885

midoritohana@city.chiba.lg.jp